

ムーンショット型研究開発制度に係る戦略推進会議（第九回）

結果報告

議題：「目標5における研究開発の進め方について（非公開）」

ムーンショット型研究開発制度に係る戦略推進会議（第九回）における上記議題について、ムーンショット目標達成に向けて、全体俯瞰的な視点から、研究開発の進捗、今後の進め方、研究の成果の橋渡しや民間との連携等社会実装に向けた方策、国際連携の推進、その他、気づきの点に関して、構成員から以下の助言等がありました。

研究推進法人におかれましては、構成員からの助言・コメント等を踏まえ、採択後のプロジェクト構成と研究開発を着実に推進していただきますようお願いいたします。

助言・コメント等

- ・ 今回の追加プロジェクトは冷排熱を利用し、食品に新たな可能性をもたらす期待を感じる。本分野のグローバルでの研究・開発、市場可能性なども明らかにするとともに、安全性や価格面などの社会受容性を含め、総合知の観点も踏まえて取り組むことを期待する。
- ・ 独自性の高く、社会課題への解決につながる可能性が高いため、国際的な優位性を確保していただきたい。
- ・ 大変興味深い研究内容で、成果を期待できるように思う。提案されている社会システムの構築・導入の可能性を検証するためには、まずマイクロレベルで「フードロス原料の集積→低温凍結粉碎（+長期保存）→食材への変換→消費可能性・飲食業界による評価」を研究・検証することが必要と思う。
- ・ 「含水ゲル粉末（e≈Food 認証制度策定）を活用したエシカルな社会システムの構築」という発想はムーンショットの理念に合致していると考えられる。ゲル関連の技術に関しては、山形大学の古川教授の専門分野であり、これまでも種々の国プロでも実績があり、シーズ技術としては魅力的な技術と思われる。

懸念点としては

- ① 将来の社会実装に向けてどんな企業が具体的に積極的に参画してくるかが不確定要素である。
- ② 技術と人文科学との融合でも、エシカルな社会システムの構築の方向性は分かるが、具体性に乏しく真の文理融合が実現できるか不明確である。

上記2点は採択後PDの指導力で懸念点を払しょくしていただくことを期待する。

- ・将来的にカーボンニュートラルが求められる中、LNG 需要は下がる可能性が高い。本プロジェクトでの含水ゲル粉末の製造、保存のための倉庫を稼働するための LNG 量確保も視野にいれる必要があると考える。さらには、LNG にかわる技術も早めに検討することを期待する。
- ・立地は、LNG 受入基地に隣接するなど制限があることが考えられるが、原料の集積や販路などを考慮したエシカルな社会システムの構築を目指してほしい。
- ・LNG プラントの余剰冷熱を使う場合、各倉庫群が近接している必要があり、点在している場合、LNG のパイプラインを通すなど無駄なエネルギーを要すると考える。
- ・本プロジェクトで製造される含水ゲル粉末と既存の食品との競合関係はどのように考えるか。優位性を整理の上進めてほしい。

令和5年7月13日

座長 星野 剛士